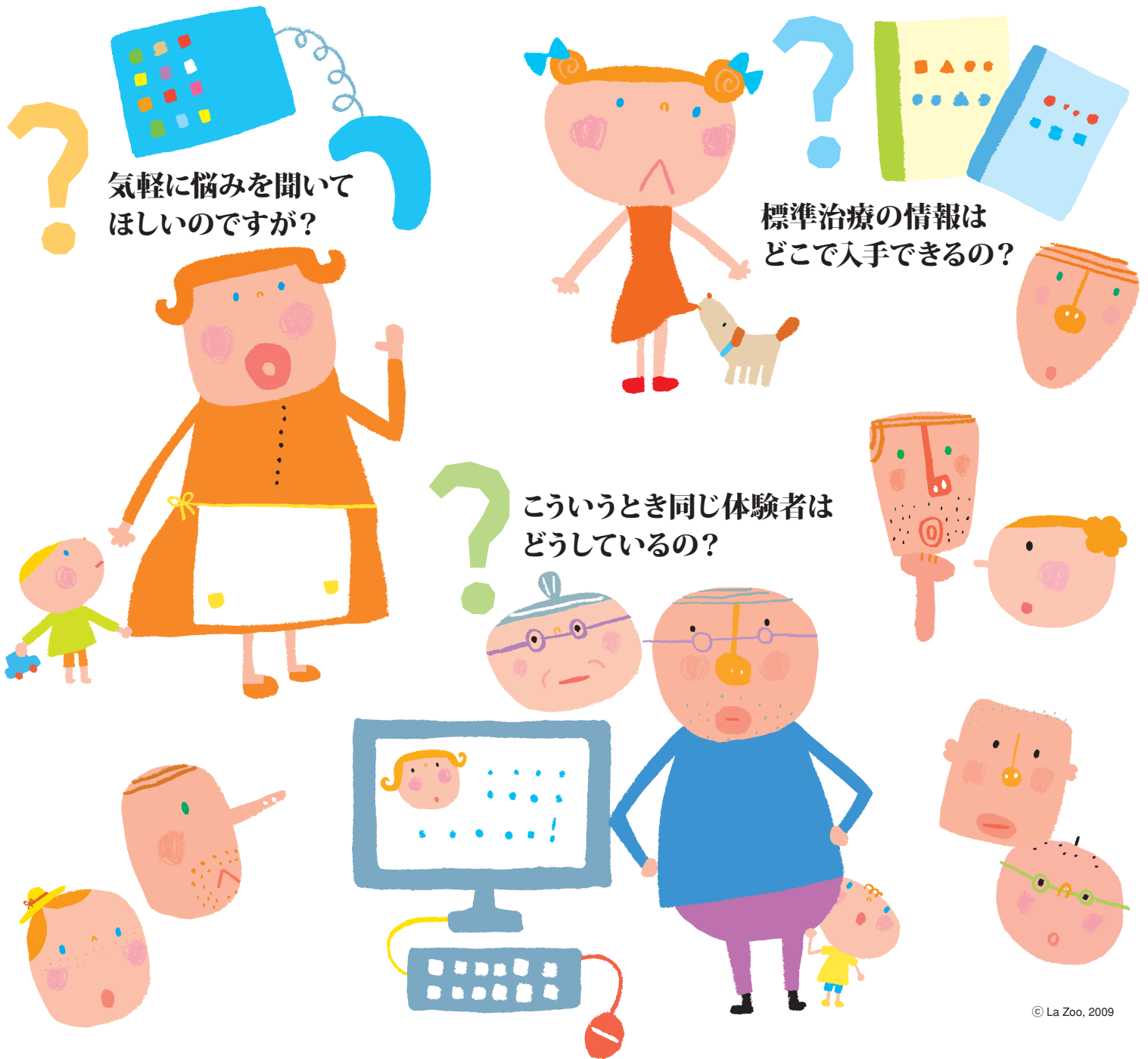


もっと知りたい! 私を支えてくれるがん情報



気軽に悩みを聞いてほしいのですが?

標準治療の情報はどこで入手できるの?

こういうとき同じ体験者はどうしているの?

© La Zoo, 2009

● 第47回 日本癌治療学会学術集会 ランチョンセミナー 23 ●

がん患者向け情報は適切か、充分か?

—より良い患者・医療者関係のためのコミュニケーションを目指して

2009年10月23日(金) 12:00 ~ 12:50
パシフィコ横浜 第8会場 418

定員
120名



共催：第47回日本癌治療学会学術集会

財団法人パブリックヘルスリサーチセンター JPOP 委員会

NPO法人日本臨床研究支援ユニット がん電話情報センター

国立がんセンター がん対策情報センター

がん患者向け情報は適切か、充分か？

—より良い患者・医療者関係のためのコミュニケーションを目指して

科学的根拠を欠く医療情報の氾濫と、その裏腹に適切な情報が患者に届けられないことが、がん患者を不安と混沌に陥れている。これによる患者・医療者間のコミュニケーションギャップと患者間の情報格差は、治療への不満足、医療者への不信、そしてがん難民を生む重大な要因のひとつである。SPIKESのような医療者側のコミュニケーションスキル向上の努力と同時に、患者に対する情報提供の基盤整備が必要であるが、この方面の取り組みはわが国では遅れていた。現状を理解し、状況改善の方向を探ることが本セミナーの目的である。

演題 1



がん患者が求める情報

橋本明子 NPO日本臨床研究支援ユニット がん電話情報センター(CTIS) / NPO血液情報広場つばさ

「血液情報広場つばさ」の活動を通じて、15年以上電話相談を続けてきた橋本明子氏が、その経験を踏まえ、患者・家族が何を求めているか、電話相談の目指すところは何かを提示する。

演題 2

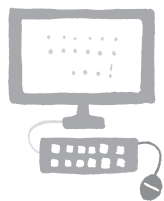


がん領域における情報格差の現状と対策

高山智子 国立がんセンター がん対策情報センター

医療者と患者・家族の「架け橋」が、がん対策情報センターのミッションである。高山智子氏は、その現状分析とともに、国のがん情報対策を、海外比較を交えて紹介する。

演題 3



がん患者を翻弄させるウェブ情報の実態

後藤 悌 東京大学大学院医学系研究科呼吸器内科学

医療情報サイトの格付けは、がん患者への情報支援の立場から重要である。後藤 悌氏に混沌の実態紹介や内外比較とともに、評価指標作成研究のフロントを紹介してもらう。

演題 4



ウェブサイト JPOP-VOICE: がん患者の体験動画に見る質的情報の意義

宮田裕章 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学

個々の患者体験に見られる質的情報の重要性が、近年注目されている。宮田裕章氏は「がん患者の体験動画サイト: JPOP-VOICE」を取り上げ、その意義を検討する。

パネルディスカッション

「混沌から、より良い患者-医療者関係の構築へ」

(司会) 大橋靖雄 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学生物統計学 /
財団法人パブリックヘルスリサーチセンター JPOP委員会委員長